

## 2022年3月期第3四半期 決算説明会

2022年1月31日

 日立建機株式会社

執行役 営業本部長 松井 英彦

執行役 財務本部長兼CFO 塩嶋 慶一郎

## 株主構成変化の要旨

HITACHI

Reliable solutions

### 株主構成の変化と日立グループとの関係

日本産業パートナーズと伊藤忠商事が当社株式の26%を保有、当社を支援  
日立ブランドは継続使用、社名も変更無し、各研究開発分野での連携を継続

### 経営戦略の柱をさらに強化、変化を加速させ、成長を確実なものに

お客さまとのあらゆる  
接点で深化した  
ソリューションを提供

日立グループ・ABBと連携し  
ネット・ゼロ・エミッションをめざす

電動化



LUMADA

データ活用

ConSite

バリューチェーン事業  
の強化

北米での物流やファイナンスで  
伊藤忠商事グループと連携



変化に強い  
企業体質の形成

日本産業パートナーズによる  
中長期的な経営基盤の強化

資産管理



北中南米事業の再構築で、売上高1兆円以上、営業利益率を安定的に2桁へ

## 1. 地域別市場環境と見通しについて

執行役 営業本部長  
松井 英彦

地域別市場環境と見通しについて、ご説明致します。

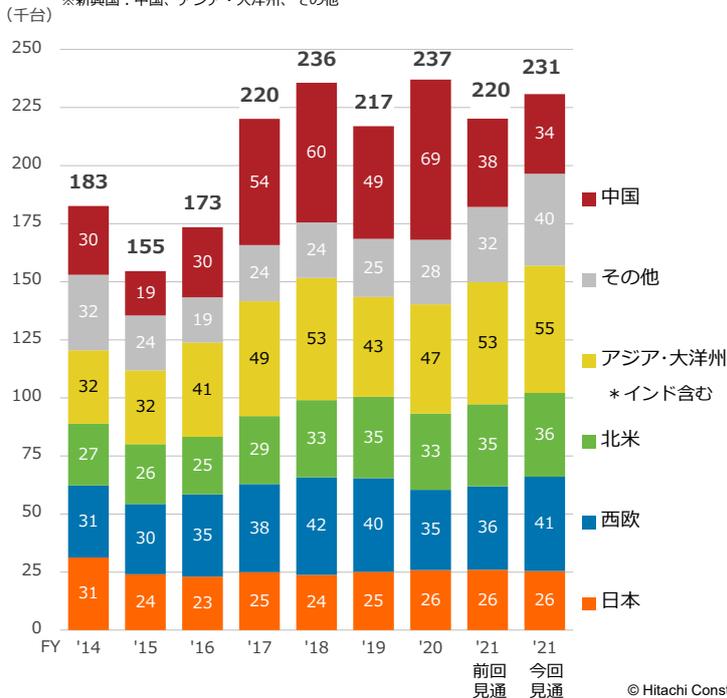
# 油圧ショベル世界需要推移

HITACHI

Reliable solutions

新興国比率：21年度 56%（前年比-5%）

※新興国：中国、アジア・大洋州、その他



地域別需要対前年増減

※当社推定 中国国産メーカー含まず  
※複写・転用はご遠慮下さい

	'20	'21
合計	+9%	-3%
中国	+42%	-50%
ロシア・CIS	-7%	+54%
東欧		
アフリカ	+10%	+45%
中東	+10%	+55%
中南米	+34%	+27%
その他	+11%	+43%
アジア	+12%	+24%
インド	+5%	+3%
オセアニア	+16%	+32%
アジア・大洋州	+9%	+16%
北米	-6%	+10%
西欧	-14%	+17%
日本	+3%	-2%

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 4

## P.4 油圧ショベルの世界需要見通しについてご説明申し上げます。

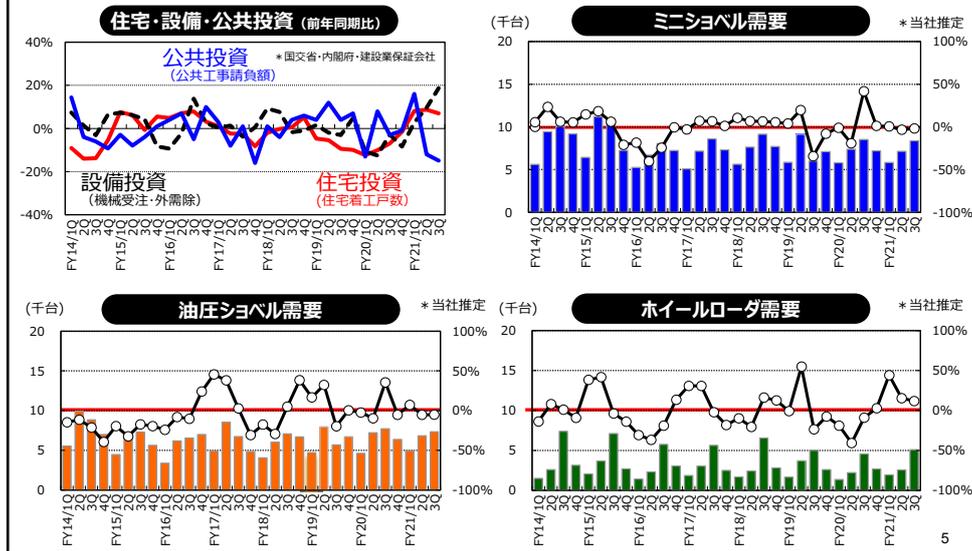
21年度は、中国市場が昨年度の需要増からの反動減に加えて、散発的に発生したコロナ感染によるロックダウンの影響もあり、需要が前回想定を下回る見込みです。

一方、その他の新興国と先進国については資源価格の上昇と景気回復により、前回想定を上回る需要が見込まれており、世界全体としましては23万1千台と前回見通しに対して増加しております。

対前年では全世界合計で3%の減少、中国を除くと17%の増加となります。

次に、各地域別に第3四半期についてご説明申し上げます。

- 設備投資は引き続き増加、住宅投資も好調、公共投資は減少。
- 油圧需要は微減：前年同期比 油圧 -5%、ミニ -2%、WL +12%



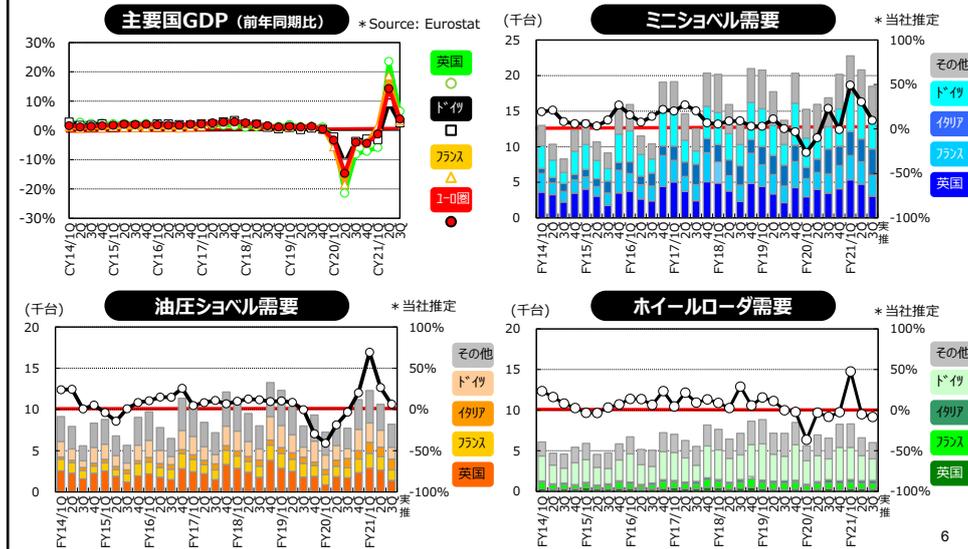
P.5 日本市場です。

左上、第3四半期の住宅投資と設備投資は前年同期比で増加しておりますが、公共投資については東北の東日本大震災の復興需要が概ね収束した影響で減少しております。

左下、油圧ショベルの第3四半期需要は、前年同期比で5%減、右上のミニショベルは2%減となります。

右下、ホイールローダーは前年の降雪量増及び今年度の記録的な降雪により除雪向けの需要が増加し、12%増となります。

- 21年3QのGDP成長率は全地域で微増。
- 油圧需要は増加：前年同期比 油圧 +6%、ミニ +10%、WL -8%



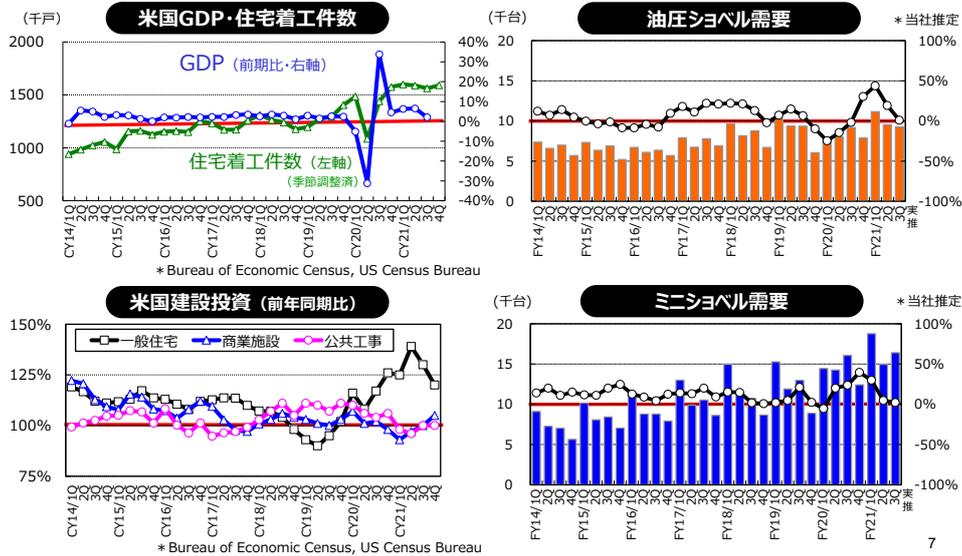
P.6 欧州市場です。

左上、ユーロ圏のGDP成長率は、コロナウイルス対策の移動制限措置の緩和に伴い、プラス成長を維持したものの、サプライチェーンの問題もあり伸びが鈍化しております。

第3四半期の需要ですが、コロナワクチン接種の進展と規制緩和による景気回復により、左下の油圧ショベルは前年同期比で6%増、右上のミニショベルは10%増となります。

右下、ホイールローダーについては8%減となります。

- 住宅市場は堅調。商業施設と公共工事は前年並み。
- 油圧需要は微増：前年同期比 油圧 +1%、ミニ +2%



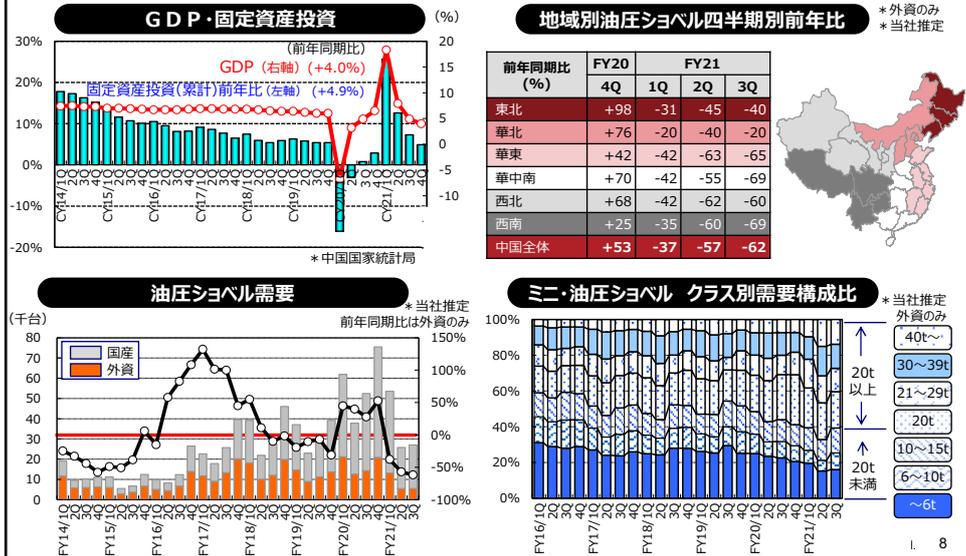
P.7 北米市場です。

左上、住宅着工件数は堅調に推移しておりますが、半導体不足の影響もあり第3四半期の実質GDPの成長率は減速しております。

左下、建設投資ですが、一般住宅は依然として高い水準で推移しております。公共工事は前年並み、商業施設は前年同期比でプラスに転じました。

右上、第3四半期の油圧ショベル需要は前年同期比で1%増、右下のミニショベルは2%増となります。

- GDP成長率は+4.0%
- 油圧需要は減少（前年同期比 -62%、外資のみ）



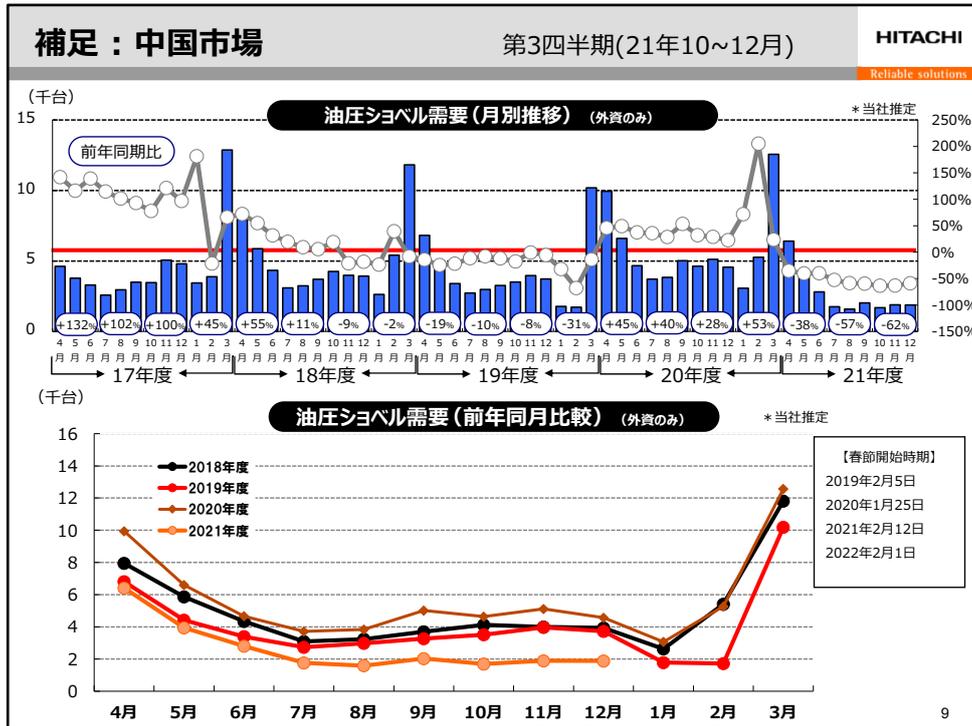
P.8 中国市場です。

左上、2021年10月から12月期のGDP成長率は4%増、固定資産投資は前年比で4.9%増と伸びが例年を下回る水準で推移しております。

左下、第3四半期の油圧ショベル需要は、国産機含めた全需要で前年同期比48%減を見込んでおり、内訳として国産の需要は43%減、外資は62%減となります。

また、右上の地域別需要推移において、全地域で需要の減少が継続しております。

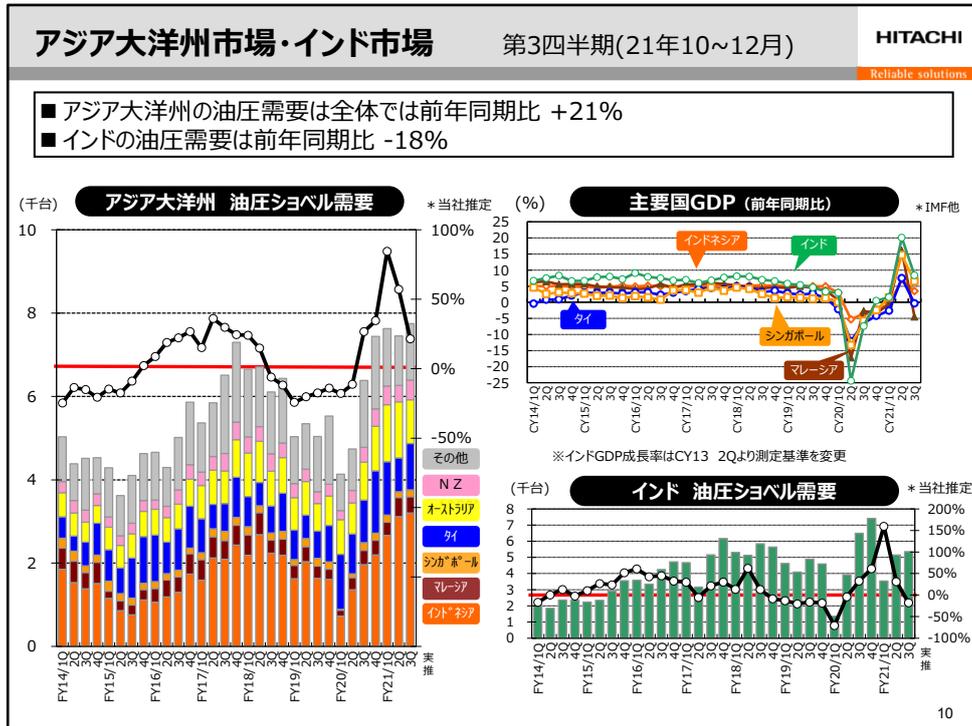
クラス別需要構成比は、資料の右下をご参照下さい。



P.9 中国市場の補足です。

上段グラフ、外資メーカーの月別油圧ショベル需要推移において、21年度第3四半期で前年同期比62%減となりました。

昨年度需要増からの反動による中国全体の需要減に加え、中国国産比率の拡大によって、需要は減少傾向が続いております。



P.10 アジア大洋州、インド市場です。

右上、前回、第2四半期で大きく増加に転じた主要国のGDPは、第3四半期で減速しております。

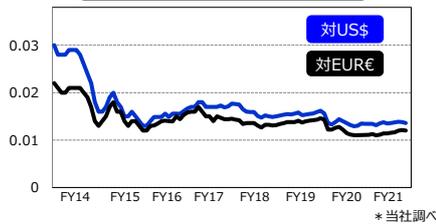
下降が一番顕著なマレーシアではコロナ感染抑制を目的とした建設業の操業規制が原因となりました。

左側、アジア・大洋州の油圧ショベルの第3四半期需要は、資源価格の高止まりや堅調な建設需要を背景に、特にインドネシアやオセアニアが続伸しており、全体では前年同期比で21%増となります。

右下、インドの油圧ショベル需要は依然として高い水準を維持するもインド南部での雨季の長期化やコロナの感染再拡大の影響もあり、前年同期比で18%減となります。

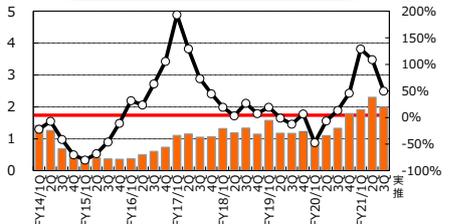
- ロシアの油圧需要は前年同期比 +50%
- 中東の油圧需要は前年同期比 +36%

ルーブル為替推移



\* 当社調べ

ロシア 油圧ショベル需要



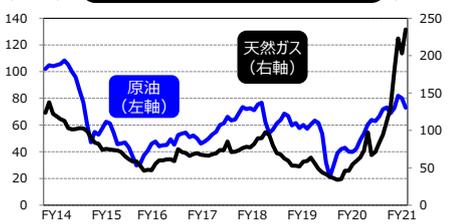
\* 当社推定

\* 工場出荷ベース

\* 現地産含む

\* 美推

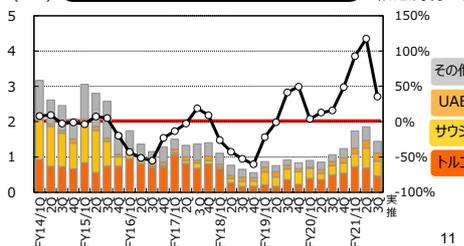
原油・天然ガス価格推移



\* 世界銀行ホームページより当社作成

\* 天然ガスIndex : 2010年=100

中東 油圧ショベル需要



\* 当社推定

\* 工場出荷ベース

(トルコは小売ベース)

その他

UAE

サウジ

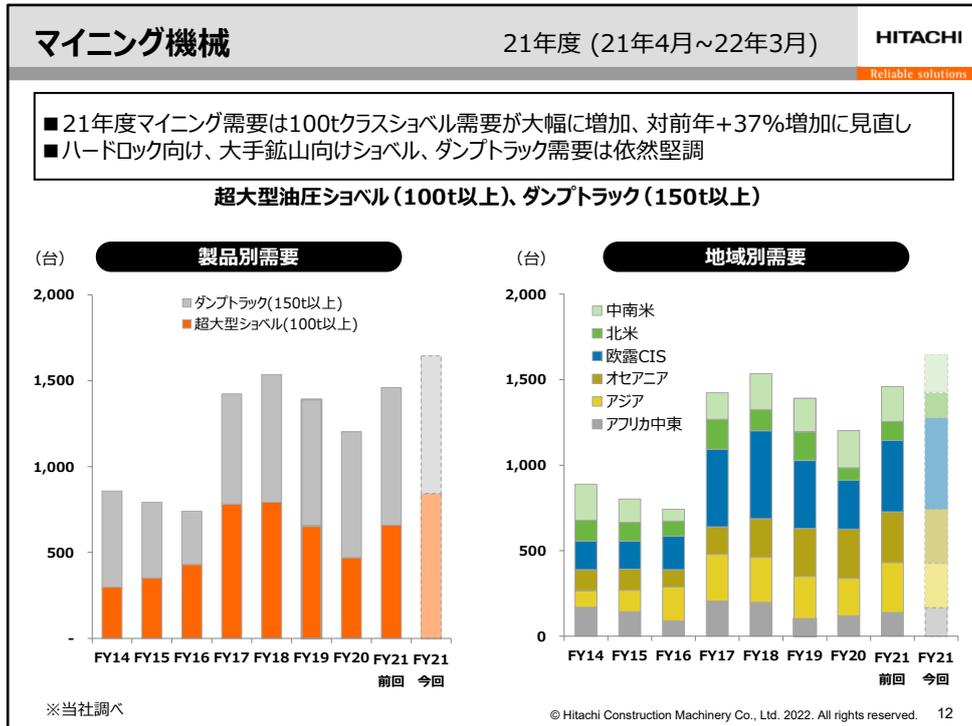
トルコ

11

P.11 ロシア中東市場です。

右上、ロシアの第3四半期の油圧ショベル需要は、資源価格が依然高い水準で推移しており、前年同期比で50%増となります。

右下、中東の油圧ショベル需要は、トルコを除く主要国で需要が続伸しており、中東全体で36%増となります。



P.12 マイニング機械についてです。

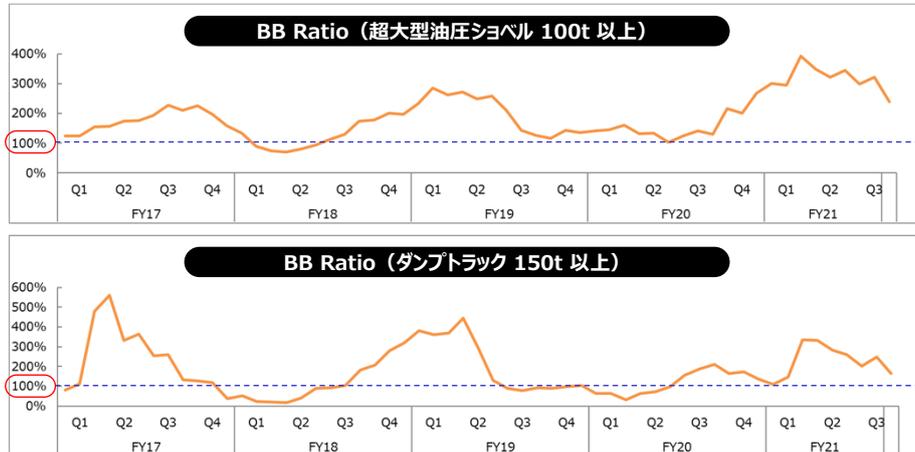
21年度のマイニング需要は、  
 中小鉱山、コントラクタ向け100トンショベルの需要が大幅に増加したことにより  
 対前年で約37%増加と見直します。

鉱種別ではハードロック向けは依然堅調に推移。  
 地域別ではインドネシアを含むアジア、ロシアでの中小鉱山、コントラクタ向け、  
 北米のコンストラクション向け100tクラスショベルの需要が増加しています。

## 補足 : BB Ratio

HITACHI

Reliable solutions



※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額)/ Billing(出荷額)  
当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 13

続いて、P.13 BBレシオです。

直近に置いても新規受注は順調に入ってきており、超大型ショベル・ダンプトラックで100%以上を維持しています。

**トピック(1) : 北中南米事業戦略 本格的な独自展開に向けて** HITACHI  
Reliable solutions

- ・日本の主要拠点から日立ブランドの最新製品を北米に続々輸出
- ・米州地域統括会社「日立建機アメリカ」の拡充・建屋・設備更新計画
- ・北中南米の既存部品倉庫を見直し、ネットワークを整備

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

**日立ブランドの最新製品を続々輸出**

土浦工場  
常陸那珂臨港工場  
播州工場  
つば部品センタ  
龍ヶ崎工場  
日立建機ティエラ

北米の部品供給ネットワークの整備  
アトランタ近郊の部品倉庫  
日立建機アメリカ本社の増改築計画

HE PARTS INTERNATIONAL

HEPの既存のチリの拠点活用、南米の新車・部品サービスの供給体制を整備

Bradken 拠点  
H-E Parts 拠点

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 14

続きまして、P.14からはトピックのご説明となります。

日立建機グループは、3月からの北中南米事業の独自展開に向けて、順調に体制を整えつつあります。進捗をご報告いたします。

日立ブランドの油圧ショベルや鉱山機械などの最新製品を11月より順次、各生産拠点から出荷を始めています。

また、米州の地域統括会社である日立建機アメリカは、トレーニングセンターの新設やオフィスを拡張する増改築計画を進行中です。

さらに、日立建機アメリカがあるアトランタ近郊に部品倉庫を用意し、南米にある既存の拠点を活用しながら部品供給網を整備中です。

本格的な独自展開に向けて、引き続きしっかりと体制を整え、成長を確実なものにしていきます。

**トピック(2) : 新型油圧ショベルZAXIS-7シリーズ発売、オプション拡充** HITACHI  
Reliable solutions

**ZAXIS-7シリーズを欧州に続き日本市場で今春発売**

- ・最新の油圧システムで高い操作性と燃費性能を両立、約10%の燃費低減\*1
- ・各クラスにICT仕様機\*2をラインアップ



**ZX135USX-7 (ICT仕様)**  
12~13トンクラス



**ZX200-7**  
20トンクラス



**ZX330-7**  
30トンクラス

**安全性と生産性の向上に貢献するオプションを拡充**

**AERIAL ANGLE STEP IV**  
物体を検知して機体を減速・停止

**Solution Linkage Work Viewer Cloud**  
機械の車体前方・周囲映像を録画  
現場や事務所から進捗管理を支援




事務所から機械位置と録画映像を確認可能

\*1: パワーモード (PWR) での従来機ZX-6シリーズとの比較  
\*2: ICT油圧ショベル ZX135USX-7、ZX200X-7、ZX330X-7の3機種

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 15

P.15 2つ目のトピックを御覧ください。

新型油圧ショベルZAXIS-7シリーズを、欧州に続き日本市場向けに4月より発売を開始いたします。

最新の油圧システムで高い操作性と燃費性能を両立し、従来機との比較で約10%の燃費低減を実現しました。

さらに物体を検知して機体を減速・停止し、障害物との接触事故を低減する「AERIAL ANGLE STEP IV (エアリアルアングル ステップフォー)」や機械の位置や稼働映像を現場以外の事務所のPCから確認し、進捗管理、支援を可能とする施工映像共有ソリューション

Solution Linkage Work Viewer Cloud

(ソリューション リンケージ ワークビューアー クラウド) のオプションを拡充することで、お客様の施工過程全体での安全性と生産性の向上に貢献してまいります。

**トピック(3) 日立製作所とDX基盤を構築、データ利活用を推進** HITACHI  
Reliable solutions

**機械の稼働情報や生産・販売・在庫情報などを「DX基盤」で一元管理**

- ・機械学習やAIなどにより、各データを目的に応じて分析、アウトプット
- ・日立製作所と協創し、今後も継続してLumada事業に貢献

**DX基盤で「営業支援アプリ」を全国で運用開始、グローバル市場での運用も検討**

- ・お客さまの機械の状態、取引履歴、製品や部品の在庫情報などをまとめて閲覧
- ・「直接営業・直接サービス」の知見を基に、AIが機械の運用方法を複数パターン提示
- ・お客さまはこれまで以上に最適な選択が可能に

各データを目的に応じて分析、アウトプット

稼働情報など      生産・販売・在庫情報など      「営業支援アプリ」運用イメージ

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 16

最後に P.16 3つ目のトピックを御覧ください。

DXを加速させるため、データの利活用を促進するプラットフォーム「DX基盤」を日立製作所と構築しました。

DX基盤によって、建設機械の稼働情報や生産・販売・在庫情報などを一元管理します。また、機械学習やAIなどを活用し複数のデータを目的に応じて分析し、アウトプットします。

このような取り組みを通じて、当社は今後も継続して日立製作所のLumada事業に貢献していきます。

この基盤を活用する第1弾として、来年度より「営業支援アプリ」を全国で運用開始予定です。お客さまの保有機械の稼働状況、これまでの取引履歴、製品や部品の在庫情報などアプリ上でまとめて閲覧できます。

さらに、これらのデータと日立建機の「直接営業・直接サービス」の知見をもとに、AIがお客さまの今後の機械の運用を複数パターン提示します。

そのため、営業担当者はこれまで以上にお客さまに適したご提案ができるようになります。

## 2. 2022年3月期第3四半期 決算説明

執行役 財務本部長兼CFO  
塩嶋 慶一郎

続きまして、執行役の塩嶋でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 連結決算の概要

HITACHI

Reliable solutions

当第3四半期は、COVID-19の影響はあるも、堅調な需要を取り込み、加えて為替円安影響もあり、売上収益は前年同期比29%増収、調整後営業利益は235%増益。

(単位：億円)

	21年度 第3Q累計	20年度 第3Q累計	前年同期比 増減率	
売上収益	7,204	5,587	29%	
調整後営業利益 *1	(8.5%) 613	(3.3%) 183	235%	
営業利益	(8.6%) 617	(2.7%) 152	305%	
税引前四半期利益	(9.2%) 663	(2.1%) 118	460%	
親会社株主に帰属する 四半期利益	(6.4%) 465	(0.6%) 31	-	
EBIT *2	(9.5%) 685	(2.6%) 144	374%	
為替	アメリカドル	111.2	106.1	5.1
	ユーロ	130.7	122.8	7.9
	中国元	17.2	15.4	1.8
	オーストラリアドル	82.7	74.2	8.5

\*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

\*2 [EBIT]は、税引前当期利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 18

先ず、P.18『連結決算の概要』をご覧ください。

21年度第3四半期累計期間においては新型コロナ変異株の行動制約などの影響が残るものの、売上収益は堅調な需要を取り込み、為替円安影響の後押しもあり、前年比29%増の7,204億円、調整後営業利益は、同235%増の613億円で、利益率8.5%、営業利益は617億円で利益率8.6%でありました。

親会社株主帰属の当期利益は、465億円でありました。

また、同累計期間の為替レートは前年比で、米ドルが5.1円の円安、また、ユーロが7.9円、元が1.8円、オーストラリアドルも8.5円の円安でした。

## 連結地域別売上収益

HITACHI

Reliable solutions

中国を除き各地域で前年同期比増収となり、連結合計では1,616億円の増収。

(単位：億円)

	21年度 第3Q累計		20年度 第3Q累計		前年同期比	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	1,548	21%	1,426	26%	121	8%
アジア	583	8%	346	6%	237	68%
インド	384	5%	323	6%	61	19%
オセアニア	1,225	17%	1,025	18%	200	19%
欧州	868	12%	546	10%	322	59%
北米	1,362	19%	714	13%	648	91%
中南米	157	2%	78	1%	79	100%
ロシアCIS	258	4%	173	3%	85	49%
中東	127	2%	100	2%	27	27%
アフリカ	303	4%	241	4%	62	26%
中国	390	5%	615	11%	△ 225	△37%
合計	7,204	100%	5,587	100%	1,616	29%
海外売上収益比率	79%		74%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 19

次に、P.19『連結地域別売上収益』をご覧ください。

中国を除き、全ての地域で前年比増収となりました。

特に北米、欧州、アジアでの市況回復が顕著で、円安影響も重なり、大幅な増収となりました。

一方、中国においては、前年比で225億円もの大幅減収となりました。

海外売上収益比率は、前年同期比5ポイント増の79%となりました。

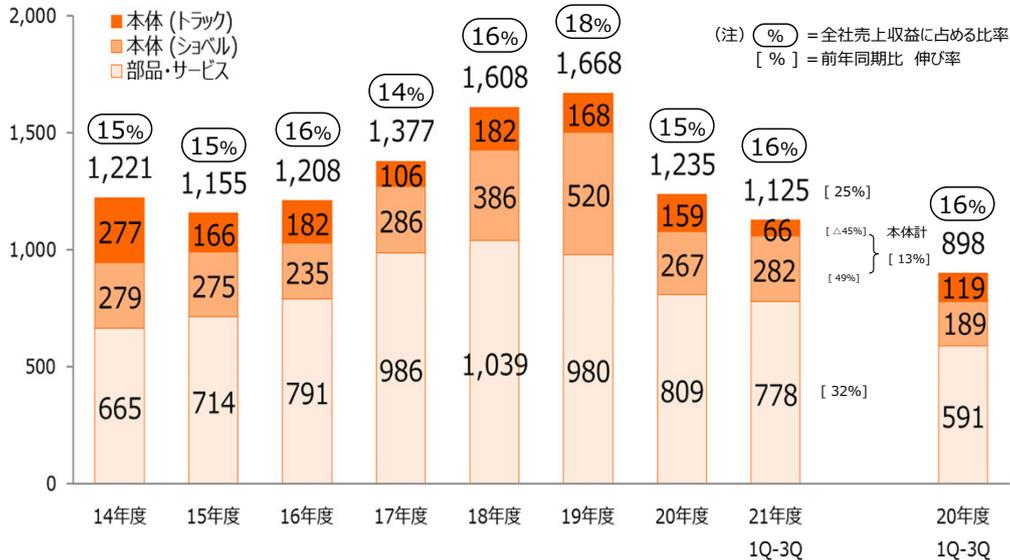
## マイニング売上収益推移

HITACHI

Reliable solutions

ショベルは堅調な需要を取り込み、部品・サービスでは物量増、加えて為替円安影響もあり、前年同期比25%増の1,125億円。

(単位：億円)



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 20

続いて P.20『マイニング売上収益推移』をご覧ください。

当四半期累計期間のマイニング売上収益は、右側から2本目の棒グラフに示した通りに1,125億円と、前年比25%の増収でした。

為替円安影響を11%相当の増収要因と分析しており、現地通貨ベースでは前年比で14%の増収でした。

本体売上が13%の増収で、トラックについては45%の減収となった一方、ショベルは49%の増収でした。

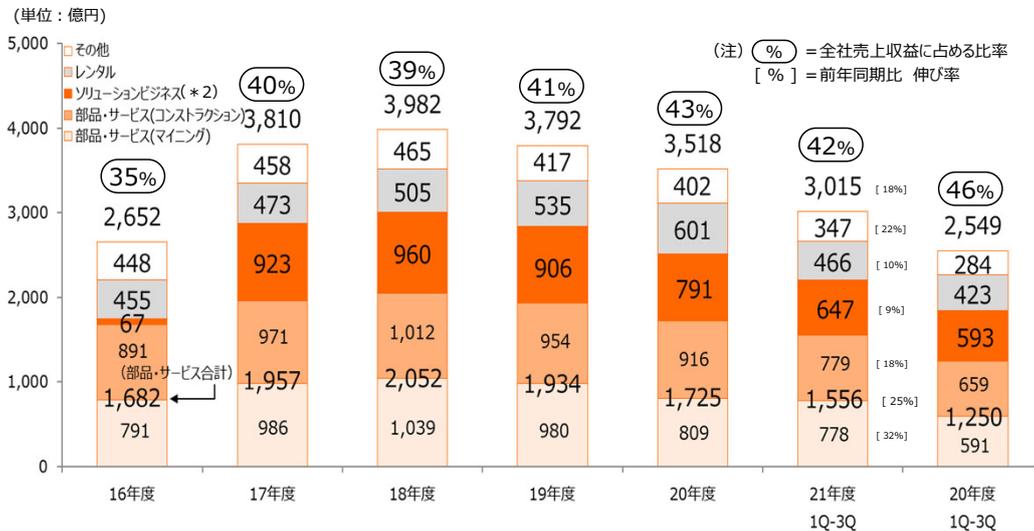
また、マイニング向け部品サービスも、32%の増収となりました。

# バリューチェーン\*1 売上収益推移

HITACHI

Reliable solutions

バリューチェーンは全部門で物量増、加えて為替円安影響もあり、前年同期比18%増の3,015億円。



\*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

\*2 ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 21

続いて、P.21は、『バリューチェーン』の状況です。

同じく右から2本目の棒グラフをご覧ください。

当四半期累計期間のバリューチェーン売上収益は、ご覧の通りに、前年比18%増の3,015億円でした。

為替円安影響を7%相当の増収要因と分析しており、現地通貨ベースでは前年比で11%の増収でした。

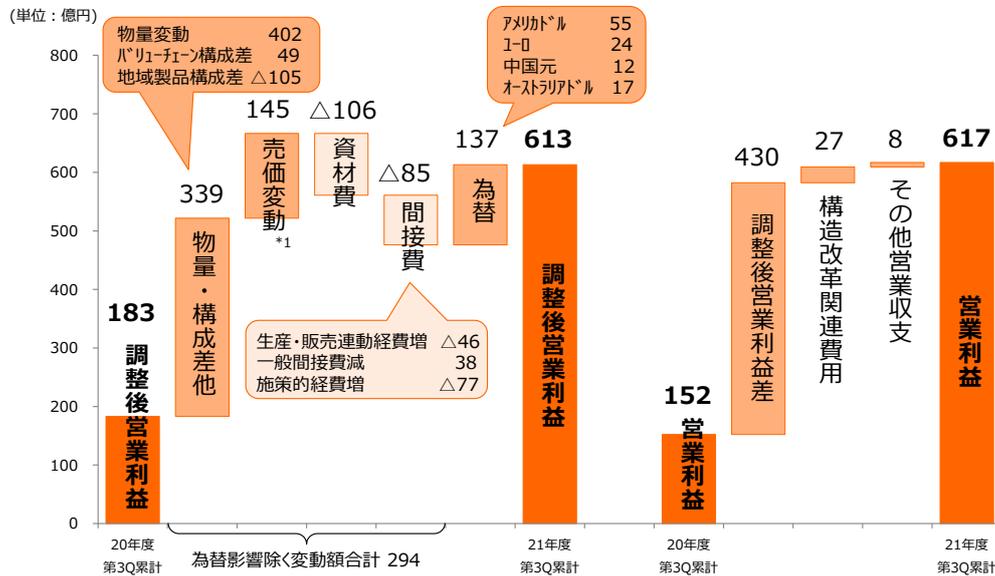
棒グラフの下段から1段目のマイニング、並びに2段目のコンストラクション合計の部品・サービスは25%の増収となりました。

## 連結損益変動要因

HITACHI

Reliable solutions

調整後営業利益は、物量・構成差、通常売価アップに加え、ディア向け価格調整もあり、為替円安影響と合わせて、前年同期比430億円の増益。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 22

続いて P.22は当四半期累計期間の『連結損益変動要因』です。

調整後営業利益で前年比430億円の増益を確保した要因を説明します。

これまでご説明しました通り、中国を除く全地域で増収を確保したことから、物量・構成差で339億円もの増益要因となりました。

また、注記の通り、第2四半期に計上したディア社との合弁解消に伴う北中南米市場での価格調整反映111億に加え、各地域での販売価格改善により、売価変動145億もの増益効果もありました。

一方で、鋼材価格高騰により資材費が106億増加した他、生産・販売物量の増加に伴い、間接費も85億増加しました。

為替円安影響137億の結果、調整後営業利益は、前年比430億増益の613億円となりました。

構造改革関連費用では、主にBradkenにて損金を計上した前年と比較し、当年度は大きな案件も発生せず、27億円の増益要因となりました。

その結果、営業利益は前年比465億増益の617億円となりました。

## 要約連結損益計算書

HITACHI

Reliable solutions

親会社株主に帰属する四半期利益は、465億円と前年同期比433億円の増。

(単位：億円)

	21年度 第3Q累計	20年度 第3Q累計	前年同期比	
			金額	増減率
売上収益	7,204	5,587	1,616	29%
売上原価	(72.7%) 5,238	(75.7%) 4,230	1,009	24%
販売費・管理費	(18.8%) 1,352	(21.0%) 1,174	178	15%
調整後営業利益 *1	(8.5%) 613	(3.3%) 183	430	235%
その他の収益及び費用	4	△31	35	-
営業利益	(8.6%) 617	(2.7%) 152	465	305%
金融収益及び費用	△15	△41	26	△63%
持分法投資損益	61	7	54	800%
税引前四半期利益	(9.2%) 663	(2.1%) 118	544	460%
法人所得税費用	164	55	109	200%
四半期利益	(6.9%) 499	(1.1%) 64	435	682%
親会社株主に帰属する 四半期利益	(6.4%) 465	(0.6%) 31	433	-

\*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 23

続いて、P.23『要約連結損益計算書』をご覧ください。

ここまで、売上収益から営業利益までご説明して参りましたので、このページでは、営業外損益以下を簡単に説明します。

金融収益・及び費用は、主として為替差益計上により、前年比26億円の改善となりました。

加えて、持分法損益も、前年比54億円の増益でした。

米州の持分法会社の業績改善 効果が大きく影響しました。

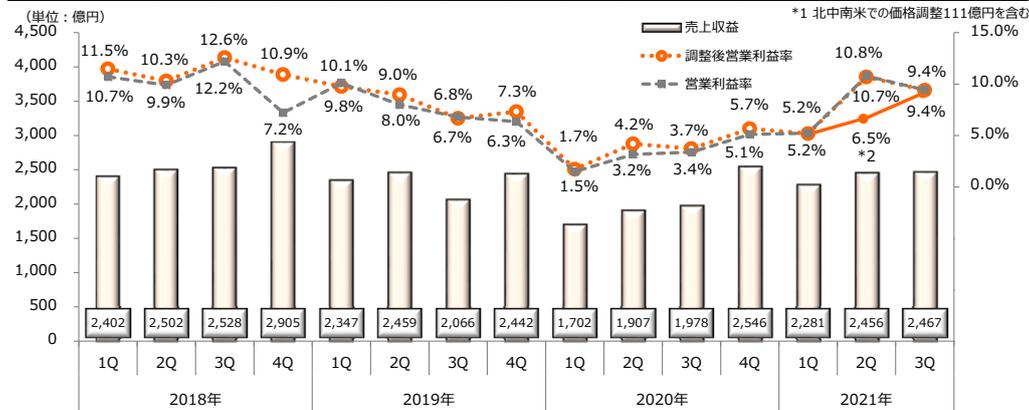
親会社株主に帰属する当期利益は、465億円となりました。

# 要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

HITACHI

Reliable solutions  
(単位:億円)

	2018年				2019年				2020年				2021年		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q *1	3Q
売上収益	2,402	2,502	2,528	2,905	2,347	2,459	2,066	2,442	1,702	1,907	1,978	2,546	2,281	2,456	2,467
調整後営業利益	276	258	318	317	229	221	138	179	29	80	74	144	118	263	232
営業利益	257	248	308	210	237	196	141	155	25	60	67	130	119	265	233



四半期別 為替レート	2018年				2019年				2020年				2021年		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
アメリカドル	109.1	111.5	112.9	110.2	109.9	107.4	108.8	108.9	107.6	106.2	104.5	105.9	109.5	110.1	113.7
ユーロ	130.1	129.6	128.8	125.2	123.5	119.3	120.3	120.1	118.5	124.1	124.5	127.7	132.0	129.8	130.1
中国元	17.1	16.4	16.3	16.3	16.1	15.3	15.5	15.6	15.2	15.4	15.8	16.4	17.0	17.0	17.8
オーストラリアドル	82.6	81.5	81.1	78.5	76.9	73.6	74.3	71.8	70.7	75.9	76.3	81.8	84.3	80.9	82.9

\*2 北中南米での価格調整111億円を除く  
© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 24

続いて、P.24四半期別の業績推移です。

一番右側の21年度第3四半期をご覧下さい。

当四半期の売上収益は2,467億円となり、前年同期1,978億に対して489億の増収となりました。

また、調整後営業利益率は、折れ線グラフに示した通りに9.4%となりました。

注記2. で示しました通り、北中南米市場での価格調整111億の影響除いた第2四半期の実質的な利益率は6.5%となり、新型コロナの影響を大きく受けた前年度と比較して、第1四半期から総じて改善傾向にあります。

# 要約連結財政状態計算書

HITACHI

Reliable solutions

当四半期末は、棚卸資産及び有形固定資産の増により総資産817億円の増加。

					(単位：億円)				
	(A)	(B)	(C)	(A)-(B)		(D)	(E)	(F)	(D)-(E)
	21年3Q	20年度末	20年3Q	増減		21年3Q	20年度末	20年3Q	増減
現金及び現金同等物	816	803	684	13	営業債務及びその他債務合計	2,184	1,992	1,741	192
営業債権	2,023	2,112	1,723	△90	社債及び借入金	3,512	3,295	3,352	217
棚卸資産	3,454	2,978	3,089	477	負債の部合計	6,899	6,513	6,266	385
流動資産計	6,795	6,172	5,863	623	(親会社所有者帰属持分比率)	(42.8%)	(42.1%)	(41.6%)	(0.6%)
非流動資産合計	6,227	6,034	5,792	194	資本の部合計	6,124	5,692	5,390	432
資産の部合計	13,023	12,206	11,655	817	負債・資本の部合計	13,023	12,206	11,655	817
非流動を含めた営業債権	2,422	2,527	2,103	△105					
棚卸資産 内訳					有利子負債計	(27.0%)	(27.0%)	(28.8%)	(△0.0%)
本体	988	773	851	215		3,512	3,295	3,352	217
部品	1,120	1,023	1,050	97	現金及び現金同等物	816	803	684	13
その他	1,346	1,182	1,187	164	ネット有利子	(20.7%)	(20.4%)	(22.9%)	(0.3%)
棚卸資産計	3,454	2,978	3,089	477	負債	2,696	2,492	2,668	205
手持日数 (分母は売上収益)					ネットD/Eレシオ	0.48	0.48	0.55	△ 0.00
営業債権 (非流動含む)	91	113	96	△22					
棚卸資産	129	134	140	△5					
営業債務	50	49	44	1					
正味運転資金	166	194	188	△28					

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 25

続いて、P.25は21年12月末の『連結貸借対照表』です。

対前年度21年3月末比較では、非流動を含めた営業債権を2,422億円と、105億円圧縮しました。

一方、棚卸資産は3,454億円と、477億増加しました。

その他、現預金増、非流動資産増もあり、総資産は13,023億円と、前年度末より817億増加しました。

手持日数は、営業債権、棚卸資産ともに前年度末より夫々22日、並びに5日短縮の91日、129日に縮減しました。

この結果、正味運転資金手持日数は28日縮減した166日となりました。

右側の有利子負債計は前年度末よりも217億増加した3,512億円、ネット有利子負債は205億増加の2,696億円となりました。

資本合計は6,124億円で、親会社所有者持分比率は42.8%、ネットDEレシオは0.48を維持しました。

## 連結キャッシュ・フロー

HITACHI

Reliable solutions

営業キャッシュ・フローは386億円のポジティブ。

(単位：億円)

	21年度 第3Q累計		20年度 第3Q累計		前年同期比 増減額	
四半期利益		499		64		435
減価償却費	912	413	441	377	472	37
売掛金及び受取手形の増減		186		526	△ 341	
棚卸資産の増減	△ 52	△ 427	338	32	△ 389	△ 458
買掛金及び支払手形の増減		189		△ 220		409
その他		△ 474		△ 211		△ 263
営業活動に関するキャッシュ・フロー		386		567		△ 181
営業キャッシュ・フロー・マージン率		5.4%		10.2%		△ 4.8%
投資活動に関するキャッシュ・フロー		△ 260		△ 233		△ 28
フリー・キャッシュ・フロー		126		335		△ 209
財務活動に関するキャッシュ・フロー		△ 138		△ 290		152

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 26

続いて、P.26は『連結キャッシュフロー』です。

当四半期累計期間の営業キャッシュフローは、386億円のポジティブとなりましたが、売上物量増により運転資本が膨らみ、前年同期比では181億円減少となりました。

投資キャッシュフローにおいても、前年比28億増の260億円の支出となり、フリーキャッシュフローは、同209億減の126億円の収入となりました。

## 要約連結損益計算書(予想)

HITACHI

Reliable solutions

21年度連結損益計算書は、前回予想から上方に修正。

注. < >内は21年10月公表値

(単位：億円)

	21年度		20年度	前年比	
	予想	実績		金額	増減率
売上収益	<9,200> 9,500	8,133	1,367	17%	
調整後営業利益	<8.0%> (8.8%) <740> 840	(4.0%) 327	(4.8%) 513	157%	
営業利益	<8.6%> (9.3%) <790> 880	(3.5%) 282	(5.8%) 598	212%	
税引前当期利益	<8.7%> (9.3%) <800> 880	(3.1%) 256	(6.1%) 624	244%	
親会社株主に帰属する当期利益	<5.0%> (5.5%) <460> 520	(1.3%) 103	(4.2%) 417	403%	
EBIT	<829> 910	287	623		

通貨	1Q-3Q	4Q	年度	20年度	前年比
	実績	予想	予想	実績	
アメリカドル	111.2	110.0	110.9	106.0	4.8
ユーロ	130.7	130.0	130.5	124.6	5.9
中国元	17.2	17.5	17.3	15.7	1.6
オーストラリアドル	82.7	80.0	82.0	76.0	5.9
1株当たり配当金 *1	未定			20円	-

為替感応度は  
参考資料1を  
ご参照ください

\*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%程度、もしくはそれ以上をめざします。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 27

続いて、今回の21年度業績予想をご説明します。

スライドP.27『要約連結損益計算書(予想)』をご覧ください。

これまでご説明して参りました当四半期累計期間の実績、需要環境を鑑み、今年度業績予想については前回10月に続いて、公表値を上方修正します。

具体的には本スライドの通り、売上収益9,500億円、調整後営業利益840億円、親会社株主に帰属する当期利益520億円とします。調整後営業利益率は8.8%を見込みます。

尚、前回公表値に織込みましたディア社との合併解消に伴う北中南米市場での価格調整111億、及び当年度末での合併会社株式の譲渡益82億については変更ありません。

第4四半期の予想為替レートにつきましては、今回、米ドルを110円、ユーロを130円、元も17.5円と円安方向に変更しました。

P.32に、参考資料1.として、第4四半期の売上収益と調整後営業利益に影響する為替感応度も掲載しましたので、ご参考願います。

## 要約地域別売上収益(予想)

HITACHI

Reliable solutions

21年度連結売上収益は、対前回比で300億円、対前年比で1,367億円の増収を見込む。

(単位：億円)

	21年度 予想		20年度 実績		前年比	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	2,064	22%	2,033	25%	31	2%
アジア	779	8%	527	6%	251	48%
インド	547	6%	500	6%	47	9%
オセアニア	1,573	17%	1,399	17%	174	12%
欧州	1,123	12%	878	11%	244	28%
北米	1,709	18%	1,072	13%	637	59%
中南米	188	2%	109	1%	79	72%
ロシアCIS	386	4%	227	3%	159	70%
中東	210	2%	161	2%	49	31%
アフリカ	393	4%	336	4%	57	17%
中国	527	6%	891	11%	△363	△41%
合計	9,500	100%	8,133	100%	1,367	17%
海外売上収益比率	78%		75%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 28

続いて、P.28は『地域別売上収益の予想』です。

当年度売上収益については、9,500億円に再上方修正する旨、ご説明しましたが、その地域別の予想となります。

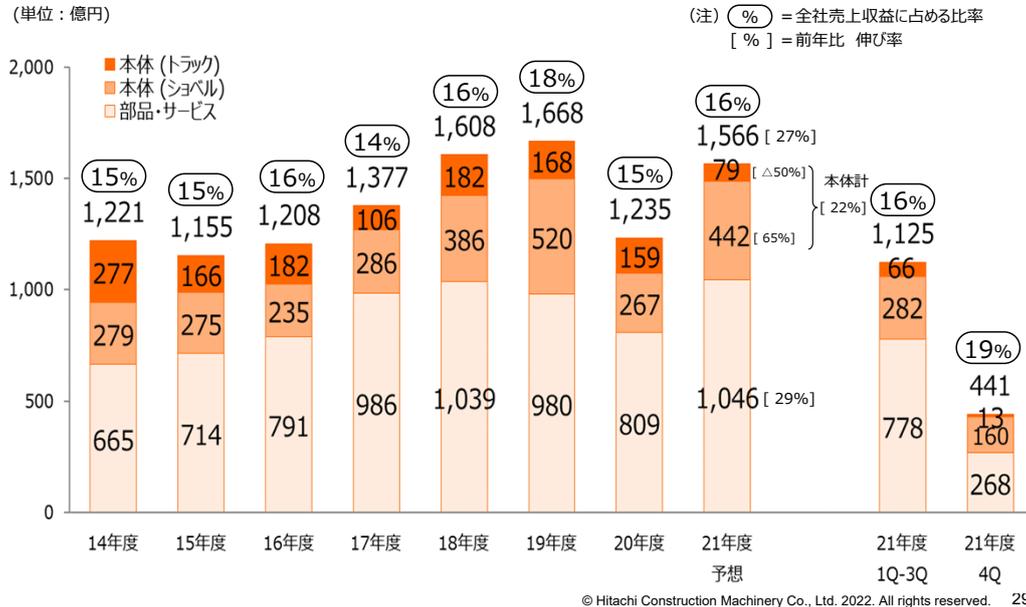
中国において、前年比で減収を見込みますが、それ以外の全地域において、北米、アジア、欧州を中心に前年比増収を予想しております。

## マイニング売上収益推移(予想)

HITACHI

Reliable solutions

21年度マイニング売上収益は、対前回比で5%、対前年比で27%増収の1,566億円を見込む。



次に、P.29は『マイニング売上収益予想』です。

当年度のマイニング売上収益予想も、前年比27%増収の1,566億円と、公表値を再上方修正します。

マイニング機械本体はトラックとショベル合計で、前年比22%の増収を見込む他、部品サービスも前年比29%増収の予想です。

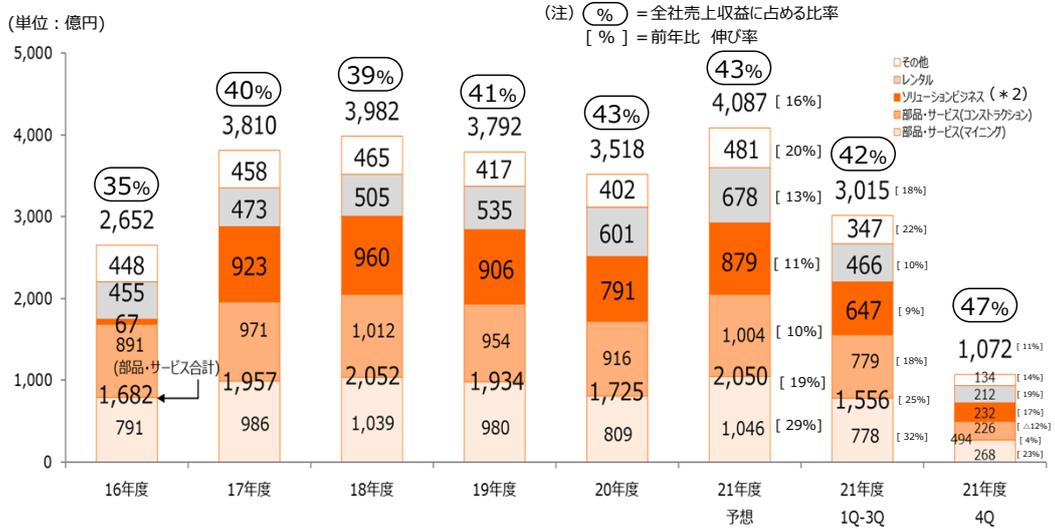
尚、P.33に参考資料 2. として地域別の『マイニング売上収益内訳』を掲載していますので、ご参考願います。

# バリューチェーン\*1 売上収益推移(予想)

HITACHI

Reliable solutions

部品サービスは対前年比で5%、対前年比で16%増収の4,087億円を見込む。



\*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

\*2 ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 30

続いて、P.30『バリューチェーン売上収益推移(予想)』をご覧ください。

当年度のバリューチェーン売上収益予想も、前年比16%増収の4,087億円と、公表値を再上方修正致します。

個々には部品サービス初め、レンタル、ソリューションビジネスにおいても対前年増を織込みます。

尚、売上構成比は、前年と同水準の43%となる見込みです。

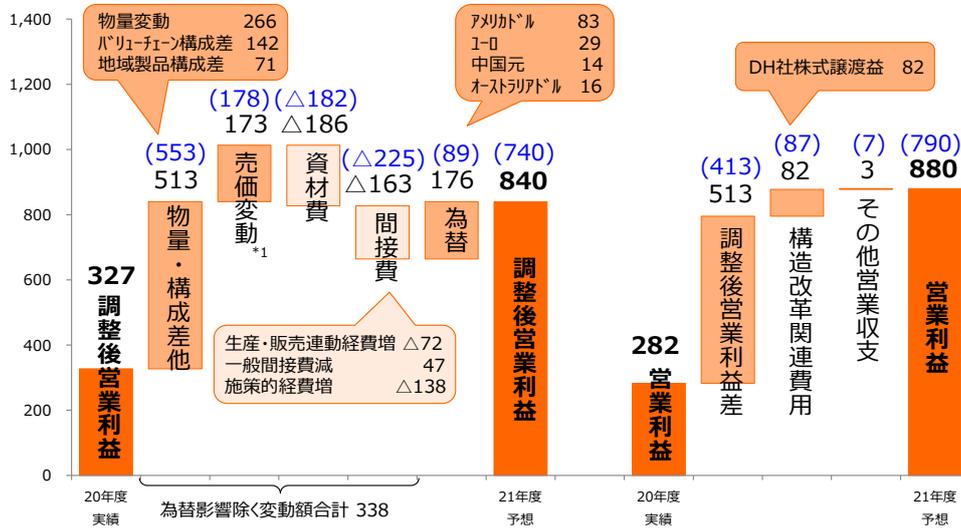
## 連結損益変動要因(予想)

HITACHI

Reliable solutions

調整後営業利益は、物量・構成差、通常売価アップに加え、ディア向け価格調整もあり、為替円安影響と合わせて、前年比513億円の増益。

(単位：億円) 注.( )内は21年10月公表値



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 31

ご説明の最後となりますP.31『連結損益変動要因(予想)』をご覧ください。

当年度調整後営業利益が前年比で513億の増益を見込む840億円となる要因をご説明します。

この図に示しました通りに、市況回復による物量増、構成差による増益513億が大きく、加えて第2四半期に計上した北中南米市場での価格調整111億と各地域での販売価格アップを織込んだ売価変動173億も増益要因となります。

一方で、鋼材価格高騰による資材費増186億、間接費増163億の減益要因もあり、最終的には為替円安影響176億の持ち上げも加わり、調整後営業利益840億円を見込みます。

営業利益は、調整後営業利益の増益513億に加え、構造改革関連にディアとの合併会社株式の譲渡益82億を織込むことで、前年比598億の増益となる880億円を見込みます。

次ページ以降に参考資料を3枚付けておりますので、ご参照下さい。

## 参考資料 1 : 為替レート及び為替感応度

HITACHI

Reliable solutions

21年度4Q予想為替レートは、通貨毎に予想変動レンジ内で合理的に設定。

為替レート及び為替感応度

(単位：億円)

通貨	為替レート				感応度(4Q)		
	21年度			20年度 実績	基準	売上収益	調整後 営業利益
	1Q-3Q 実績	4Q 予想	年度 予想				
アメリカドル	111.2	110.0	110.9	106.0	1円円安になった場合	6	5
ユーロ	130.7	130.0	130.5	124.6	1円円安になった場合	2	2
中国元	17.2	17.5	17.3	15.7	0.1円円安になった場合	1	0
オーストラリアドル	82.7	80.0	82.0	76.0	1円円安になった場合	6	1

## 参考資料 2 : マイニング売上収益内訳

HITACHI

Reliable solutions

(単位：億円)

		20年度実績			21年度見通し			差額		
		1-3Q累計	4Q	年度	1-3Q累計	4Q	年度	1-3Q累計	4Q	年度
米州	ショベル	79	27	106	78	8	86	△ 1	△ 19	△ 20
	トラック	9	12	21	20	7	27	11	△ 5	6
	計	88	39	127	98	15	113	10	△ 24	△ 14
欧阿中東	ショベル	108	45	153	180	101	281	72	56	127
	トラック	96	26	122	126	46	172	30	19	49
	計	204	72	276	306	147	452	102	75	177
アジア・大洋州	ショベル	363	134	496	528	227	755	165	93	259
	トラック	227	81	308	179	47	226	△ 48	△ 34	△ 82
	計	590	215	805	707	274	981	117	59	176
中国	ショベル	4	4	7	5	2	6	1	△ 2	△ 1
	トラック	1	0	1	1	0	1	0	0	0
	計	4	4	8	6	2	7	1	△ 2	△ 1
日本	ショベル	9	7	16	9	3	12	0	△ 3	△ 3
	トラック	3	1	4	0	0	0	△ 3	△ 1	△ 4
	計	12	8	20	9	3	13	△ 3	△ 4	△ 7
合計	ショベル	563	216	779	800	340	1,140	237	125	361
	トラック	335	121	456	326	100	426	△ 10	△ 20	△ 30
	計	898	337	1,235	1,125	441	1,566	227	104	331

### 参考資料3：セグメント情報

HITACHI

Reliable solutions

下記ソリューションビジネスの調整後営業利益は、P P A (資産再評価)償却費が含まれております。  
21年度第3四半期実績には8億円、21年度予想には11億円がそれぞれ含まれております。

(単位：億円)

21年度 第3Q累計	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	6,557	672	△ 26	7,204
調整後営業利益	8.6% 565	7.2% 48	-	8.5% 613

(単位：億円)

21年度 予想	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	8,621	879	0	9,500
調整後営業利益	8.9% 767	8.3% 73	-	8.8% 840

\*1 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに帰属しない全社に係る金額です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 34

日立建機グループでは、持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標のうち、**10項目の重点目標を設定しています。**  
 当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**  
 世界を変えるための17の目標

**【見通しに関する注記事項】**

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあり得ます。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

**【商標注記】**

「Lumada」は、株式会社日立製作所の登録商標です。「AERIAL ANGLE」「ConSite」「Solution Linkage」は、日立建機株式会社の登録商標です。

**END** **日立建機株式会社**

ブランド・コミュニケーション本部